

五部浄像 国宝

734年につくられたこの胸像は、仏教における八部衆の一人である五部浄の像の一部である。誇らしげな表情をした若い少年として表現されていて、鎧を身につけ、像の頭部を思わせるような頭飾りをつけている。これは、五部浄が仏教およびヒンドゥー教における超自然的な存在であるデーヴァの一人であることを意味しているとする研究者もいる。

八部衆の像すべてについて言えることだが、この像も麻の繊維に漆を塗り重ねた乾漆造で、内部は空洞になっている。五部浄の像は八部衆の中で唯一大きな損傷を受けている。右の手と上腕は明治時代（1868～1912年）に東京国立博物館に寄贈されている。